

重点項目Ⅲ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

〈推進項目①〉 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

施策の方向性 郷土愛を育む教育の推進

県民一人ひとりが「ふるさと徳島」への誇りを持ち、郷土を愛する心を醸成するため、地域資源を活かした多様な体験・交流活動の機会を創出します。

あわ文化や近現代の優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、徳島に根付いた文化について学び、ふるさと徳島の魅力を発信する「あわっ子文化大使」など、次代のあわ文化の担い手を育成します。

県内高等教育機関と連携して、地域の課題解決や活性化に向けた地域連携フィールドワーク講座の開講、ボランティア活動を大学の単位として認める「ボランティアパスポート」拡充に取り組むなど、地方創生を担う人財を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(6)、2(2)、4(1)(2)(3)、5(3)】

- 「あわ文化」に関する教育を充実するとともに、「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる人材の育成により一層取り組みます。
- 芸術文化活動に関する情報が、学校で使いやすく、児童生徒にわかりやすい形で提供できるよう取り組みます。
- 学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。
- 「ふるさと文化人材バンク」の拡充や4Kデジタルコンテンツの活用等を通して、児童生徒がふるさとの伝統文化や文化財を学び、理解を深めることにより、郷土徳島を誇りに思い、愛する心を育みます。
- 「ふるさと徳島」の魅力を幼児期から伝え、学校の教育活動の中で地域資源を活かした多様な体験・交流活動等の機会を取り入れ、徳島の魅力を実感できるように取り組みます。
- 郷土徳島が生んだ偉人の生き方や優れた功績を取り上げた本県独自の道徳教材を活用し、児童生徒が、郷土徳島に誇りを持ち、社会の発展に尽くした先人への尊敬と感謝の念を深め、我が国を愛する心を育むための取組を推進します。
- 県内に所在する様々な文化財の保護を図るため、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。
- 「NIPPON」探究スクール事業では、世界の中の我が国と徳島の歴史を紐解きながら、我が国と郷土を愛し、他国を尊重する態度と心を育成するという事業の趣旨を踏まえ、生徒自身が主体的に社会に参画し自立して社会生活を営むために必要な力について考える機会づくりに取り組みます。

- 文化の森総合公園では、子どもから大人まで生涯にわたって郷土の自然や歴史・文化に対して理解を深めることができるよう、学校での授業・課外活動での利用を促進するとともに、博物館、近代美術館、文書館の所蔵する資料の展示・貸出や職員の講師派遣をより一層進めます。
- 鳥居龍蔵記念博物館においては、より一層資料の充実・活用や調査研究を推進するとともに、2020年鳥居龍蔵生誕150年を好機として、鳥居龍蔵及びその業績の浸透を図ります。

施策の方向性 大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大

大学との連携による地域の課題解決や活性化を図るため、大学等サテライトオフィス開設支援制度を活用し、県内外の大学サテライトオフィスの誘致により、地域密着した教育・研究活動や公開講座等の地域貢献活動を促進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、4(1)】

- 阿南光高校に高大連携や地域・民間連携の拠点となる高校・大学・地元企業が一体化したキャンパスを創設し、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組むことにより、地方創生の原動力となる人材を育成します。
- 高大連携のもと、SNSを活用して大学生から高校生への情報提供、高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）出張講義一覧」の作成、高大接続改革フォーラムの開催等、内容の充実を図り、高校と大学の更なる連携強化を目指します。
- 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。
- 京都大学と県内の連携指定校との間で行われている出前授業や、オープン授業等の取組をさらに充実させるとともに、京都大学のELCASや大阪大学のSEEDS、兵庫県4大学（神戸大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学）によるGSC-Hyogo等の取組に県内の高校生がより多くチャレンジするように促します。
- マナビィセンター（総合教育センター1階）においては、県内外大学のサテライトオフィスや高等教育機関が有する先端機器等を活用することにより、県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。（再掲）

施策の方向性 若者による未来志向のアイデアの創出

若者が自由な発想と新たな視点で、自由闊達に夢を語り、従来の枠にとらわれない創造的なアイデアを提案する「とくしま若者未来夢づくりセンター」の活動を通じ地域への理解を深め、多様な価値観を共有しながら創りあげた新たなアイデアが政策に反映される達成感を味わうことで、「ふるさと徳島」に貢献する意欲あふれる人財を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章5(3)】

- 若者が集い、身近な課題について未来志向で対話し、課題解決のための新しい視点や手法を生み出す取組に、高校生も積極的に参加するよう呼びかけ、地方創生に貢献する人材の育成を目指します。
- スーパーオンリーワンハイスクール事業では、地域が抱える課題について、高校生ならではの解決を図る活動を重視し、地域社会に向けた成果の普及・発信の充実に取り組みます。

施策の方向性 「とくしま回帰」の促進

大学生等の県内就業を促進し、本県産業を担う人財の確保を図るため、経済団体や企業と連携して、奨学金返還支援制度を創設し、県内事業所等に一定期間就業した学生の奨学金の返還を支援するとともに、県内企業のインターンシップの拡充を図るなど、若者の地元定着を促進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、5(8)】

- 世界をフィールドに活躍する県内企業等と連携した「徳島ならではの」ものづくりや、地域の課題を解決する起業体験の取組等を推進し、徳島の未来づくりに積極的に参画する人材を育成します。
- 本県産業を担うことができる人材を育成するため、経済団体等と連携して、小・中・高等学校とその保護者を対象に、県内企業の見学バスツアーやインターンシップの拡充を図るなど、県内企業の魅力や技術の理解を推進します。
- 次の段階への進学・就職のみを見据えた進路指導に加え、未来の社会を創り上げていくという視点で児童生徒の意識の変容や資質・能力の育成に取り組みます。
- 若者のUターンや定着・定住を促進するため、関係機関と連携を図り、高校生に対してSNS等を活用した情報発信システムへの登録・利用を促し、高校卒業後も、県内の企業や、「徳島ならではの」魅力ある生活・文化に関する情報を提供することにより、若者の「とくしま回帰」の意識を醸成します。
- 教員採用審査において、他県の現職教員を対象とした特別選考を実施するとともに、県外の大学と連携した採用審査に係る説明会の開催等、積極的な広報を展開することにより、本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進を図ります。

施策の方向性 世界遺産登録への挑戦

文化遺産等の保存・活用を進め、先人の貴重な遺産を後世に引き継ぐとともに、地域への誇りや愛着を育むため、「四国八十八箇所霊場と遍路道」、「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指した取組を推進します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章4(3)】

【四国八十八箇所霊場と遍路道】

- 世界遺産登録へ向け、世界遺産暫定一覧表記載候補提案書（平成28年8月提出）の内容充実を図り、次期国内暫定一覧表見直し時のリスト記載を目指します。
- 世界遺産登録に向けた課題である資産保護のため、国史跡の追加指定等を計画的に進めるとともに、「顕著な普遍的価値」の証明に向けた取組を加速します。
- 遍路道に残る石造物やお接待文化など遍路文化を継承していくため、市町村と連携を図り、遍路道ウォーキングや講演会等を開催し、県民の文化財保護意識を醸成します。

【鳴門の渦潮】

- 徳島県のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。
- 「鳴門の渦潮」について、自然的・文化的側面からの学術調査を進め、「鳴門の渦潮」が世界に誇る「顕著な普遍的価値」を証明するとともに、学術調査によって得られる様々な知見を、「鳴門の渦潮学」として児童生徒が学ぶ機会を設けることにより、地域の歴史や文化を理解し、徳島を愛する心の育成を図ります。
- 児童生徒自らが、ポスター、俳句、書道などの作品制作を通じて「鳴門の渦潮」を学び、知り、考えるきっかけとするため文化コンクールを開催し、「鳴門の渦潮」の文化的価値を高めます。

【板東俘虜収容所関係資料】

- 「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録を推進するため、シンポジウムを開催するなど、機運醸成の取組を継続します。
- 板東俘虜収容所の歴史やユネスコ「世界の記憶」登録への取組について高等学校等で出前授業を行い、若年層に向けて、平和を愛する心、郷土への誇りを育む教育を実施します。
- 4Kデジタルコンテンツ等を活用して、我が国が世界に誇るべき板東俘虜収容所の歴史が持つ魅力を、国内はもとより世界に向けて発信します。

〈主要事業実施工程表〉 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

■主要施策・主要事業の概要 □成果指標	平成34年度までの工程				
	H30	H31	H32	H33	H34
■「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる人材を育成します。 □「あわ文化検定」の受検者数 ㊹ 931人 → ㊺ 1,050人	950人	975人	1,000人	1,025人	1,050人
■伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む若い世代の増加に努め、次代の担い手を育みます。 □人形浄瑠璃伝承教室の参加者数（累計） ㊹ 1,658人 → ㊺ 1,858人	1,698人	1,738人	1,778人	1,818人	1,858人
■児童生徒が郷土の伝統文化や文化財への理解を深めることにより、ふるさと徳島を愛する心を育みます。 □「ふるさと文化人材バンク」を活用し、あわ文化学習に関する講師を派遣した学校数 ㊹ 60校 → ㊺ 93校	65校	72校	79校	86校	93校
■地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、素晴らしさを広く発信します。 □埋蔵文化財総合センター利用者数 ㊹ 9,200人 → ㊺ 9,300人	9,300人	9,300人	9,300人	9,300人	9,300人
■史跡・埋蔵文化財についての講演会やウォーキングを開催し、県民の文化財保護意識を醸成します。 □史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加者数 ㊹ 350人 → ㊺ 470人	470人	470人	470人	470人	470人
■県内に所在する文化財の保存と活用を進め、ふるさと徳島の魅力を伝えます。 □国・県指定文化財件数 国 ㊹ 99件 → ㊺ 104件 県 ㊹ 335件 → ㊺ 340件	100件 336件	101件 337件	102件 338件	103件 339件	104件 340件
■学芸員等専門職員が学校で出前授業を行うことにより、子どもたちの郷土に対する理解を深めます。 □博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の学校への講師派遣回数（再掲） ㊹ 70回 → ㊺ 70回以上	70回 以上	70回 以上	70回 以上	70回 以上	70回 以上
■農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校を開校します。 □阿南光高校の開校（再掲） ㊹ 準備 → ㊺ 開校 → ㊻ 推進	→ 開校	→ 推進			→
■高校と大学の教育内容が接続されるよう、高大連携の更なる強化に取り組みます。 □高校と大学の情報交換会やフォーラムの開催回数 ㊹ 2回 → ㊺ 2回	2回	2回	2回	2回	2回
■鳴門教育大学との連携協定に基づき、各専門部会での取組を通じて、本県教育の充実を図ります。 □鳴門教育大学との連携（再掲） ㊹ 推進 → ㊺ 推進	→ 推進				→

■主要施策・主要事業の概要 □成果指標	平成34年度までの工程				
	H30	H31	H32	H33	H34
■京都大学と県内の連携指定校との間で行われている取組の充実を図ります。 □出前授業やオープン授業の実施校数 ㊹1校→㊺11校	3校	5校	7校	9校	11校
■県内全域において同じレベルの学習機会を創出し、学びの場への県民の参画を促進します。 □サテライトオフィスを活用した講座の受講者数(再掲) ㊹→㊺100人	20人	40人	60人	80人	100人
■新商品の開発や地域の活性化など、高校生による課題解決に向けた取組を支援します。 □スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数(再掲) ㊹3事例→㊺3事例 □6次産業化商品のプロデュース数(累計)(再掲) ㊹7件→㊺22件	3事例 10件	3事例 13件	3事例 16件	3事例 19件	3事例 22件
■本県産業を担う人材を育成するため、県内企業の魅力や技術の理解促進を図ります。 □高校におけるインターンシップの実施率(全日制・定時制)(再掲) ㊹97.6%→㊺100%	100%	100%	100%	100%	100%
■優秀な教員を確保するため、県内外の大学において教員採用に係る説明会を開催します。 □県内外大学における教員採用に係る説明会開催数(再掲) ㊹19回→㊺24回	20回	21回	22回	23回	24回
■「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録の推進に向けて、国史跡の追加指定等を計画的に進めます。 □札所寺院の国史跡追加指定に向けた意見具申 ㊹→㊺2カ寺	意見具申	推進			
■「鳴門の渦潮」の世界遺産登録を目指します。 □世界遺産登録に向けた取組の推進 ㊹学術調査の実施→㊺申請書案を文化庁へ提出	調査		提出	推進	
■「鳴門の渦潮学」講座を開催することで、地域の歴史や文化を理解し、地域に愛着を持った児童生徒の育成を図ります。 □小・中学生向け講座の実施回数 ㊹準備→㊺15回	5回	7回	10回	12回	15回
■「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録に向け、機運醸成、魅力発信を推進します。 □「世界の記憶」登録に向けた取組の推進 ㊹準備→㊺推進	推進				

〈推進項目②〉世界に羽ばたくグローバル人材の育成

施策の方向性 徳島発、世界を体感できる環境づくり

Tokushima 英語村プロジェクト、徳島ウインターキャンプなど本県独自の取組において、志高き仲間との切磋琢磨を通し、コミュニケーション能力、語学力はもとより、総合的な人間力を高め、次代のトップリーダーとして育成し、世界に羽ばたく教育を推進します。

海外の学校との交流活動の展開や高等教育機関、経済団体、企業が一体となって海外留学や国内外インターンシップ活動を支援することにより、グローバルな視点と地域の視点（ローカル）を兼ね備えたグローバル人材を育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(3)、5(5)】

【英語力の向上】

- 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、ふるさと徳島の魅力を学ぶ補助教材であるデジタルコンテンツを活用し、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成などを推進します。
- 小・中・高等学校において英語教育の指導改善を図るため、各学校における学習到達目標を「CAN-DOリスト」形式で具体化し、英語の「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組み、児童生徒の英語力向上を図ります。

【生きた英語に触れる機会の創出】

- 英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成と、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、広く社会へ目を向け国際協調の精神を育むため、小・中・高等学校の発達段階に応じた英語体験プログラムをメニューとするTokushima 英語村プロジェクトにより、児童生徒が世界を体感する場を提供します。
- 中学生や高校生に国際的な視野を持たせ、海外への関心を高めるため、海外勤務・留学経験のある社会人・大学生等を講師として学校等に派遣する取組や、県内在住の外国人、留学生、海外ボランティア経験者等の人材を活用した国際理解教育を推進します。
- 留学、語学研修を希望する中学生・高校生に対して経費の支援を行い、留学等の促進を図ります。また、海外の高等学校・大学への留学・進学や、国内においてグローバル化を先導する大学への進学を希望する中学生、高校生、保護者等に対する各種の情報提供や手続面での助言等の支援を行います。

【グローバル・リーダーの育成】

- SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受け、健康増進の観点も取り入れた特色ある研究開発をしている城東高校の取組を支援し、持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・リーダーに必要な態度や素養の育成を図ります。（再掲）
- 「教育交流に関する協定」を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州や台湾・新竹市など、海外の学校からの教育旅行の受入や学校間のパートナーシップ協定締結等を促進することにより、教育、文化、スポーツ等の幅広い分野において児童生徒の交流の機会を拡充し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚の育成を推進します。

【帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導】

- 大学や各種関係団体等とのネットワークを構築することで、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。
- 市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行う体制を早期に築くことで、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適応し、学力を向上させることができるよう支援します。
- 帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことによって、学級の他の児童生徒も異文化に対する相互理解を深め、豊かな国際感覚を養うことができるよう、学習活動の工夫・改善に取り組みます。

施策の方向性 科学の魅力を実感し、世界に挑戦

県内外の大学生等が、県内の高校生と一緒に学び、科学の素養を磨く「とくしま科学技術アカデミー」を創設するとともに、県内の小・中学生へ体験型の科学の出前講座などを実施する体験型講座を開講し、科学技術の未来を切り拓く人材を育成します。

日本が世界に誇る科学分野において、自主的に取り組む能力と意欲のある子どもたちが、知識を旺盛に吸収し、自分自身で真理を探究しながら、国際科学オリンピックや科学の甲子園などを目指し、より高い次元へと自己研鑽するチャレンジを支援します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(1)、2(1)】

- 「とくしま科学技術アカデミー」において、小・中・高校生に対して科学の面白さに触れる体験型講座を実施することにより、科学技術人材の裾野の拡大を図るとともに、科学技術に関する素質と意欲を持つ児童生徒の才能や可能性をさらに伸ばします。
- 国際科学オリンピックに関する講習会や科学の甲子園徳島県予選の開催を周知し、より多くの高校から集った理数系の学びに興味を持つ高校生が切磋琢磨する機会を提供することにより、それぞれの高校で理数系の学習を牽引する核となる高校生を育てます。
- SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、理科や数学に重点を置いたテーマを定めて研究に取り組んできた、城南高校、脇町高校、徳島科学技術高校について、その取組の充実・発展を支援するとともに、研究成果の県内各校への普及を推進し、国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を目指します。（再掲）
- 小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。（再掲）
- 平成30年4月、城北高校に理数科学科を新設し、地元大学や企業、研究機関と連携した課題研究などに取り組み、科学技術分野において、郷土徳島の産業活性化を担う人材を育成します。

〈主要事業実施工程表〉世界に羽ばたくグローバル人材の育成

■主要施策・主要事業の概要 □成果指標	平成34年度までの工程				
	H30	H31	H32	H33	H34
■「グローバル人材」の育成に向け、新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るため、小学校英語専科教員の配置を推進します。 □小学校英語専科教員の配置人数 ㊹10人→㊺16人	12人	14人	16人	16人	16人
■小学校英語教科化に伴う専門性向上のための研修の充実を図ります。 □英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数（累計）（再掲） ㊹436人→㊺1,580人	580人	830人	1,080人	1,330人	1,580人
■英語4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組み、児童生徒の英語力向上を図ります。 □求められる英語力を有する生徒の割合 中学校3年生 英検3級程度以上 ㊹47%→㊺65% 高等学校3年生 英検準2級程度以上 ㊹41%→㊺65%	50%	55%	60%	62%	65%
	50%	55%	60%	62%	65%
■小・中・高等学校の発達段階に応じて、生きた英語に触れる機会を創出します。 □児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数（累計） ㊹154人→㊺1,054人	334人	514人	694人	874人	1,054人
■持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・リーダーの育成を図ります。 □海外の学校等との交流校延べ数（中学・高校） ㊹22校→㊺32校	24校	26校	28校	30校	32校
■学校へ日本語講師を派遣したり、指導者研修会を開催したりすることにより、帰国・外国人児童生徒等に対する教育支援を推進します。 □学校への日本語講師の派遣 ㊹推進→㊺推進	推進				→
■国際科学オリンピック講習会等の開催を周知し、理数系の学習を牽引する高校生を育てます。 □国際科学オリンピック講習会の参加者数 ㊹220人→㊺245人	225人	230人	235人	240人	245人
■SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取組の研究成果を県内の各高校に普及します。 □SSH合同発表会への参加校数（再掲） ㊹5校→㊺10校	6校	7校	8校	9校	10校
■鳴門教育大学との連携協定に基づき、各専門部会での取組を通じて、本県教育の充実を図ります。 □鳴門教育大学との連携（再掲） ㊹推進→㊺推進	推進				→

〈推進項目③〉 国際舞台で躍動するアスリート、アーティストの育成

施策の方向性 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

将来性、潜在能力の高い人財を発掘し、トップレベルの競技者へと育成するため、ジュニア期からの一貫した指導やスポーツ医・科学を活用した集中的な育成、トップスポーツ校による重点的な競技力の強化、有望選手への支援など高等教育機関や企業との連携を図りながら各種施策を積極的に展開し、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ、本県からのアスリート輩出を目指します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(5)、5(3)】

【競技力の向上】

- 一貫指導体制の構築と優秀な指導者の育成を目的とした「徳島育ち競技力向上プロジェクト」を一層充実させ、競技力の向上を図ります。
- 2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、全国大会等で活躍する運動部の育成・強化に努めるとともに、各競技の底辺拡大により選手確保を図ります。
- 2019年から2021年にかけて開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西）を一過性のものとせず、競技力向上に向けての課題を掌握し、それぞれに対応した事業の新設・集約を行うなど計画的・継続的な事業展開を図り、国体順位30位台を目指します。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会に向けて、本県からの選手輩出に努めます。また、国際大会や全国大会に向けて、鳴門渦潮高校及びトップスポーツ校の更なる競技力向上を図ります。
- 女性アスリート特有の課題に対して、医科学サポートを中心とした支援プログラムとサポート体制を構築することにより、競技力の向上はもとより、女性アスリートの競技生活の延伸や活躍機会の創出を図ります。

【スポーツ施設の充実】

- 鳴門渦潮高校の充実した施設・設備の活用を一層推進するとともに、県外強豪校との対戦・交流や関係機関、大学との連携を密にし、スポーツ拠点校としての機能強化に取り組めます。
- 県立学校のスポーツ施設について、公式大会の開催や合宿の誘致・競技団体等への一般開放ができるよう整備します。
- 徳島科学技術高校において、アーチェリー、ウエイトリフティング及び弓道の3競技施設の一体的かつ重層的な整備に着手するとともに、ホッケー場の整備やライフル射撃場の充実などの検討を進め、未来に継承できる県立学校スポーツ施設の整備に取り組めます。

施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信

全国初、二度の国民文化祭を通じ、魅力を発信した「阿波藍」「阿波おどり」「阿波人形浄瑠璃」「ベートーヴェン第九」の4大モチーフに代表される「あわ文化」にさらに磨きをかけ、徳島ならではの「文化プログラム」を創造し、東京オリンピック・パラリンピックを見据え世界に向け発信するとともに、一流の芸術文化を鑑賞・体験する機会を創出し、徳島から世界へ羽ばたく創造性豊かなアーティストを育成します。

今後の取組 【関連する「第2期計画」の成果と課題 第3章1(6)、2(6)、4(1)(2)】

- 本県が誇る伝統文化や文化財について、児童生徒が触れ、学ぶ機会の充実を図るとともに、保存団体等と連携し、伝統文化や文化財の継承・保存に取り組もうとする若い世代の増加に努め、次代の担い手育成を目指します。
- 本県における「あわ文化教育」の目標を達成するよう文化教育を推進し、児童生徒に豊かな情操や創造性を培い、学校における芸術文化活動の取組成果を発信します。
- 児童生徒が、美術や音楽など優れた芸術活動に触れたり、体験したりする機会を充実させるため、中学校文化連盟が主催する徳島県中学校総合文化祭を支援するとともに、全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭への生徒派遣などの取組を支援します。
- 地域の芸術家や団体と学校の連携を深めることを通じて、学校や児童生徒が主体的、継続的に芸術文化活動に取り組むことができる環境の整備を図ります。
- 将来の芸術家としての資質を有する生徒が、芸術家の指導を直接受けられる機会の提供を目指し、その方策を検討します。
- 文化の森総合公園では、「あわ文化」や優れた芸術作品に直接触れあう機会を設けるとともに、絵本の読み聞かせや史跡巡り、ワークショップ、古文書解読等の普及事業の開催により、次代の「あわ文化」の担い手を育みます。
- 全天候型に機能強化を図った野外劇場をはじめ、文化の森総合公園各文化施設において、魅力ある企画展やイベントの開催を通じ、広く県内外に向けて、文化・芸術の感動や体験の場を提供します。

〈主要事業実施工程表〉国際舞台で躍動するアスリート、アーティストの育成

■主要施策・主要事業の概要 □成果指標	平成34年度までの工程				
	H30	H31	H32	H33	H34
■2022年に四国で開催予定の全国高校総体に向け、各競技の底辺拡大を図るとともに、国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。					
□県高等学校総合体育大会生徒参加率	49.0%	50.5%	52.0%	53.5%	55.0%
⑳47.2%→㉓45.0%					
□全国高等学校総合体育大会等の入賞(団体・個人)数	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人
⑳47団体・個人→㉓50団体・個人					
□全国中学校体育大会等の入賞(団体・個人)数	13団体・個人	13団体・個人	13団体・個人	13団体・個人	13団体・個人
⑳5団体・個人→㉓13団体・個人					

■主要施策・主要事業の概要 □成果指標	平成34年度までの工程				
	H30	H31	H32	H33	H34
■スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校スポーツ科学科の施設・設備を活用し、スポーツの拠点校としてより高度で質の高いスポーツ教育を行い、本県スポーツ科学の普及・振興を図ります。 □全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞（団体・個人）数（再掲） ㊹5団体・個人→㊺5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人
■競技力向上に向けての課題を把握し、それぞれに対応した事業の新設・集約を行うなど計画的・継続的な事業展開を図り、国体順位30位台を目指します。 □国民体育大会天皇杯順位 ㊹46位→㊺30位台	30位台	30位台	30位台	30位台	30位台
■2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会に向けて、本県からの選手輩出に努めます。 □東京オリンピック・パラリンピック及びデフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者数（累計） ㊹一→㊺14人			東京オリ・パラの開催	デフリンピックの開催	
			14人		
■女性アスリート特有の課題に対して、医科学サポートを中心とした支援プログラムとサポート体制を構築することにより、競技力の向上はもとより、女性アスリートの競技生活の延伸や活躍機会の創出を図ります。 □女性アスリート支援セミナーの開催 ㊹一→㊺4回	4回	4回	4回	4回	4回
■文化芸術分野のリーディングハイスクールである名西高校の成果を発信し、本県文化芸術の普及・振興を図ります。 □全国コンクール等での名西高校の入賞（団体・個人）数（再掲） ㊹61団体・個人→㊺75団体・個人	65団体・個人	65団体・個人	70団体・個人	70団体・個人	75団体・個人
■伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む若い世代の増加に努め、次代の担い手を育みます。 □人形浄瑠璃伝承教室の参加者数（累計）（再掲） ㊹1,658人→㊺1,858人	1,698人	1,738人	1,778人	1,818人	1,858人
■中学・高校生による芸術文化活動について、その取組成果の発信を支援します。 □徳島県中学校総合文化祭の充実 ㊹推進→㊺推進 □近畿高等学校総合文化祭の充実 ㊹徳島大会準備→㊺徳島大会開催→㊻推進	推進				→
	→	開催	推進		→
■優れた芸術作品に直接触れ合う機会を設けるとともに、幅広い世代を対象とした普及行事を実施し、「あわ文化」の担い手を育みます。 □文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数（再掲） ㊹270回→㊺270回以上	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上
■文化の森総合公園各文化施設のさらなる利便性向上に努め、魅力ある企画展やイベントを開催することにより、文化・芸術の感動や体験の場を提供します。 □文化の森総合公園各文化施設入館者数総計（累計）（再掲） ㊹2,125万人→㊺2,525万人	2,205万人	2,285万人	2,365万人	2,445万人	2,525万人